

発行 社会福祉法人 聖友ホーム  
 聖友学園 (児童養護施設)  
 〒166-0001 杉並区阿佐谷北3-28-19  
 ☎ 3338-1844 FAX 3338-1894

# ひーちっこ



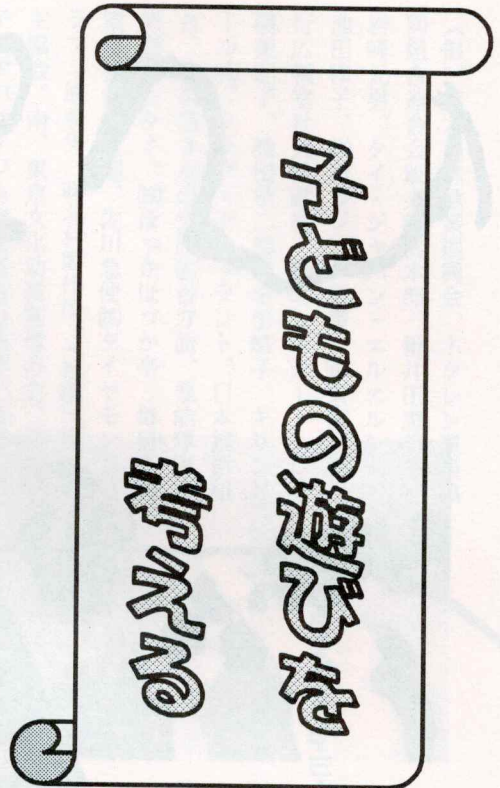
2月3日 節分  
 福はうち  
 鬼はそと!!



目次 ●コラム・子どもの遊びを考える ..... 2  
 ●ふわふわ・KIDSパソッコクラブ ..... 4  
 ●あっちこっち・阿佐谷北松山通り交友会 ゆうやけ市 ..... 5  
 ●このゆびとまれ・学園の子どもたちに「自立応援団」 ..... 6  
 ●「ありがとうございました」 ..... 7

小学校の地区班では、定期的に地区のバトロールを実施しています。夕方、遊歩道や公園など子どもたちがいそうな場所を覗くのですが、ほとんど姿が見えません。その時、ふと考えました。いったい、放課後の子どもたちはどこで過ごしているのだろうか、と。

よく言われる、少子化。それに加えて、塾、習い事をしている子どもが多く、時間が合わず一緒に遊ぶ友だちがいらないのです。「今日は何時ま



でなら大丈夫」とか「今日は遊べない日」などの言葉を子ども同士の会話でよく耳にします。しつかりしているな、と思う反面、人数を集めて遊ぶことが難しいのだとも感じます。忙しいスケジュールの合間を見つけては遊ぶ約束をし合う今の子どもたちは、どうしても気の合う子、仲のいい子、みの少人数で遊ぶことにならざるでしょう。

昔は年齢の違う大人数の集団で遊ぶことで、人間関係の作り方など大

切なことを覚えたと言われています。大人の手が加わったものではなく、ほとんどが子どもたちでルールを決め、ガキ大将がリーダーとなり、皆をまとめる——単に遊んでいるようでも、そこには大人になるための重要なステップがあります。ルールを決めることは法律を作ることであり、仲間を集めることは組織を作ること、ガキ大将がまとめ、リーダーの下で働くこと——分析すると、おもしろいように大人の世界に当てはまりません。最近のメールを媒介としたコミュニケーションしかとれないという子が増えてきていると言われる現象に象徴されるような人間関係の希薄さは、そのステップを踏まずに成長していることが一つの要因とは考えられないでしょうか。

次に、遊びの中身について考えてみたいと思います。昔は、空き地での「チャンバラ」「おままごと」を始めとした「ごっこ遊び」、交通量も激しくなかった道路での「缶けり」「陣地取り」「石けり」「ゴム段」、テレビ時代が始まった時期にはヒーロー物

に夢中になり、風呂敷をマント代わりにまとい、主人公になりきって駆け回ったりしたものです。当時は与えられる物などほとんどなく、友達同士で継承されてきた「あそび」に興じたり、「遊び」を自ら作り出していました。また、それだけの自由な遊び場もあったからかもしれません。時代が進むにつれ、遊び場あつた空き地などは宅地化が進み、今では「空き地」すらなかなか見つかりません。

現代の子どもにも「遊び」があります。しかし、いろいろな社会的要因が絡まり、その形は変わってきています。

ゲーム機やパソコンの普及で、一人でも何時間も過ごすことができず。恐らく、ゲームに熱中している間は、一人で時間を過ごしていても、寂しさや孤独を感じることはあまりないのではないでしょうか。遊びの中に付随する人間関係の悩みや葛藤を経験しなくても、毎日を通してことは出来てしまいます。もちろん、大多数の子どもたちは、いろいろな経験をしながら、大人になっていきます。しかし、社会的事件となった少年犯罪を振り返ってみると、その

背景には遊びの形の変化の歪みが表れているようにも感じられます。

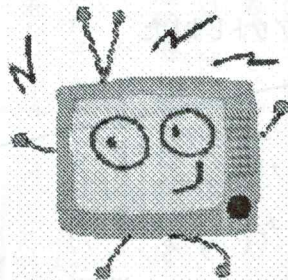
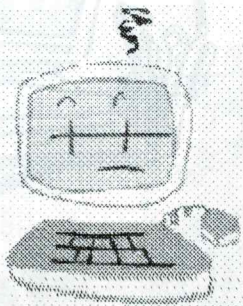
また、時代は情報や物が溢れています。近頃は、その中から自分で選択していく能力が大切、と言われます。今の時代、何もない状態を設定するのは非常に困難と言えます。何もなくても遊びを作り出していた昔と比べると、たくましさや想像力を培っていく機会が少なくなってきているように思います。

「ゲームやっていると一日あつという間」と子どもが言っているのを耳にしたことがあります。『よく遊び、よく学べ』という言葉がありますが、子ども時代の大切な一日一日の積み重ねで、人は成長し大人になっていきます。そして、その大人たちが新しい未来を作っていくのです。

来年度から学校週5日制がスタートします。このところ学校で取り入れられている「総合的な学習」と合わせて、子どもたちの『生きる力』をどうやって育てていくか――。昔は自然に身に付いていた力を育てていくことが困難になってきており、

改めて考えていかなければならぬのが現代なのだと感じています。皆様はどう考えますか。

ぴーちっこ編集委員会





# KIDSパソコンクラブ

今回ご紹介するKIDSパソコンクラブは、企業の働きかけによって始められた活動です。そこで働く人たちがパソコンを通し、子どもたちとの交流を図るといふもので、NPO法人KIDSの協力を頂き、関東のいくつかの施設で始められました。今年は学園がその対象となり、7月から1月まで、ほぼ毎月1回小6から高3の子どもたちが参加しました。

パソコンは学園でもまだ始めたばかりでしたが、この活動がきっかけとなり、ADSLの導入を進めることができました。デジタルカメラやインターネットを使って、画像を取り込んでのTシャツ作りや年賀状作成など色々なことをボランティアさんが考えて取り組んで頂きました。

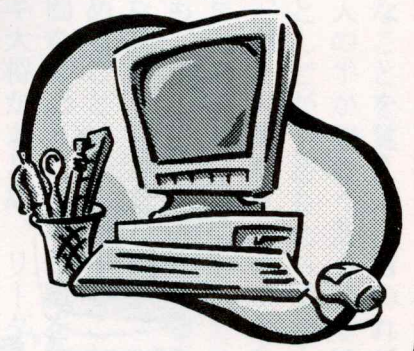
それまであまりパソコンをいじったことのない子どもたちにも親切に教えて下さり、おかげでそれまで曖昧だったローマ字を一生懸命覚える子もいるなど、楽しみながらの活動はあっというまでした。

これをきっかけに、参加したボランティアさんから今後同様の活動を続けたい、とのお話がありました。これからは新たに『パソコンクラブ』として関わっていただくことになりそうです。今後ともどうぞ宜しくお願いします。



好きな画像をTシャツにプリントアウトしました

はじめは、なじめにくくて  
 "キド" 来たけど、やさしく  
 せしてくたそうおつかさ。  
 またまかいかあさらがうさい

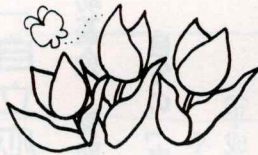


感想!!

「Tシャツ作りなど、いろいろと挑戦してみても楽しかったです。パソコンクラブで初めてやるものが、たくさんあって勉強になりました。計6回と短い間でしただけ、丁寧に教えて下さって、どうもありがとうございました。」



エクセルを使ってオリジナルのおこづかい帳作り



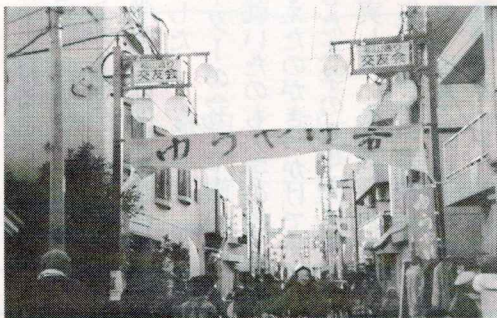
今回はゆうやけ市のお話をします。ゆうやけ市とは東京阿佐ヶ谷松山通り商店街「交友会」が地域活性化の為に特売、フリーマーケット、ジャズ演奏等を行っているもので、学園の子どもたちはお小遣いでもちやや食べ物を買ったり様々な出し物を見たりできるこの催し物が大好きなのです。

さてここで十二月九日のゆうやけ市でのエピソードを紹介します。職員と六人の男の子で出かけた時のこと。その中のしんじ君は、道中一番最初の店で欲しいおもちゃを見つけ、「これほしい」職員の「他の店も見てください」に最初は納得しましたが、しばらくして「やっぱあれがいい。もし売り切れちゃったらどうするの?」と言いだし、その後はずっと心配顔。職員もまさかそんなことはないだろうと思いつつも、しんじ君の不安げな表情を見てドキドキ。

二人ではやる気持ちを抑え、ようやく最初の店に戻ってくると…なんとそのおもちゃ、まだ沢山残っていました。職員は「ほらまだ残ってるでしょ」という言葉をぐっと飲み込み、「よかつたね。まだ残ってる」と声をかける。と、しんじ君にもようやく笑顔が戻り一件落着となったのです。

これからも内容盛り沢山のゆうやけ市を職員、子ども共々楽しみに待っています。またよろしくお願います。

あつた  
しんじ



## このゆびとまれ

## 学園の子どもたちに「自立応援団」

## 松坂自立援助基金・賛助会のご紹介



「聖友学園松坂自立援助基金」は、児童養

護施設出身の松坂國雄さん(故人)を支えてきた方々からの寄付金を、児童の自立を援助する資金として活用するため昭和六十二年に創設されました。この度、基金拡充のため賛助会が発足し、子どもたちの自立応援団として、その輪が広がります。

## 聖友学園松坂自立援助基金・賛助会

会長 玉野 智子

(阿佐谷北通郵便局々長)

私は、聖友学園の子どもたちが学園を出てからの生活についてかねてから気がかりでした。ほとんどの方が自活することですが、それに伴う金銭的な負担をどう解決しているのか。そこには、やはり厳しい現実があるようです。仕事と学業の両立、転職、病気…。そんな不安と常に背中合わせに彼等は生きています。賛助会の話もちあがり、その趣旨にすぐ賛同させていただきました。会長として子どもたちと賛助会のため微力を尽くしたいと思います。

## 自分の「出来る限り」を!

平成6年卒園生 N・T

(平成8年大学進学のため基金利用)  
大学に入るまでは「生活の事」「金銭的な事」等の不安や悩みがありました。諦めようと思つて勉強も何もしなかつた時期もありました。しかし、『ここで諦めたら将来必ず後悔する。』と思ひ、友人、知人、学園の先生に相談し、奨学金の制度なども調べました。その結果、その時不足していた入学までの準備金として学園の松坂基金を活用し、生活費はアルバイトで、学費は育英会の奨学金でまかなう事を決め、青山学院二部経済学部に入学しました。

夜間の大学ということで学費は昼間の半分程度ですが、入学前は、夜間という「暗い」とか「同世代がない」等のイメージを持っていました。しかし、実際は通う時間帯が夜間であること以外は昼間とほぼ相違ありませんでした。基本的に昼間は仕事、夕方から大学に通うという生活パターンでしたが、全く自由な時間がなかつたことはなく、大学の長い休みを利用し、大学やアルバイト

の友達と遊びにでかけることも出来ました。大学の授業は当然「経済論」が中心ですが、ある程度自分でカリキュラムを組むことができ、在籍する学部とは関係のない授業を受けたりも出来ました。

今はコンピューターの会社で働いています。この仕事に就いたのも大学の授業を通してパソコンを覚えたのがきっかけです。

自分の過ごした大学の4年間は思つていより遥かに充実していました。とにかく諦めずやり遂げた事は自分の大きな自信になりました。自分の「出来る限り」を達成しようと頑張る事が重要です。それをサポートしてくれる人や制度、学園の基金もあるのです。今後、大学、専門学校等の進学を希望する後輩が増えると嬉しいです。

「自分の夢を、経済的な事だけを理由に諦めるなんて情けないと思つた。苦しい中でも『出来る限りは』と頑張り続ける人にたくさん出会った。その中で施設出身のハンディキヤップというわだかまりも消えていった。」  
そう彼は言います。希望を抱き荒海に乗り出そうとする子どもたちに、多くの皆様の応援をお願いいたします。

聖友学園々長 坂田 渥

「聖友学園松坂自立援助基金・賛助会」のパンフレットをご希望の方はご連絡ください。お送りいたします。

＊ぴーちっこ広場に

お集まりください＊

「ぴーちっこ」は皆様とたくさんのお話ができる広場になろうとスタートしました。

皆様には、「おたより」のかたちで広場に集まっていたとき、子どもたちに関する様々な事柄を一緒に考えていきたいと思っています。

下の用紙をご利用になり、ご意見、ご感想、日頃のエピソードなどお寄せください。たくさんのおたよりお待ちしております。

「ありがとうございました」

次の皆様よりご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

(平成十三年十月～平成十四年一月。敬称略)  
△寄付金▽

- (株)ハウジング恒産、野口道、中島和代、(有)タイスケ、廣田有美子、シャレード清水、東京文化幼稚園母の会、野村金一郎、三菱商事(株)、杉並区社会福祉協議会、(有)ササキデンキ、河北総合病院看護専門学校、織田政幸、道原商店、魚音、広瀬青物店、五十嵐青果店、三井精肉店、伊勢屋

△寄付物品▽  
阿佐谷北松山通り交友会

(次頁に続く)

きりとり

おる

※今後、継続して「ぴーちっこ」の送付を希望されますか？ ・はい ・いいえ

ご住所

TEL

お名前

FAX

のりづけ

(財) 日本農林漁業振興会、ホクレン農業協  
同組合連合会販売統括本部、新井田恵美子、

岩崎元男、タイ・ジャパン・エルエルシー、  
池田律子、(株)ハウジング恒産、(株)東京三菱銀  
行広報室社会貢献室、(株)エム・シー・エル高

橋美記子、嶋田孝二郎、増田結子、キリンピ  
ール(株)、クラブ・デ・トラント、日本鏡餅組  
合、東京第3友の会阿佐谷方面、豊能障害者

労働センター、(株)ほっかほっか亭、毎日新聞  
東京社会事業団、佐川急便(株)ダイヤモンドク  
ラブ、原春男、(株)北村製作所、(社団)東京馬

主協会、南、東京文化幼稚園母の会、(株)ロッ  
テリアパサージュ阿佐谷店店長井上貴幸、三  
菱商事(株)環境室、N T T 杉並支店青木操、ワ

ールドメイト松原、アシヤンテ、東穀協会、  
(株)ジャパンエナジー総務部広報担当、斉藤啓  
子、花王ロジスティクス東京(株)本店サービス

グループ、浅野泰一郎、杉並区役所防災課  
△パースデーフレンド▽

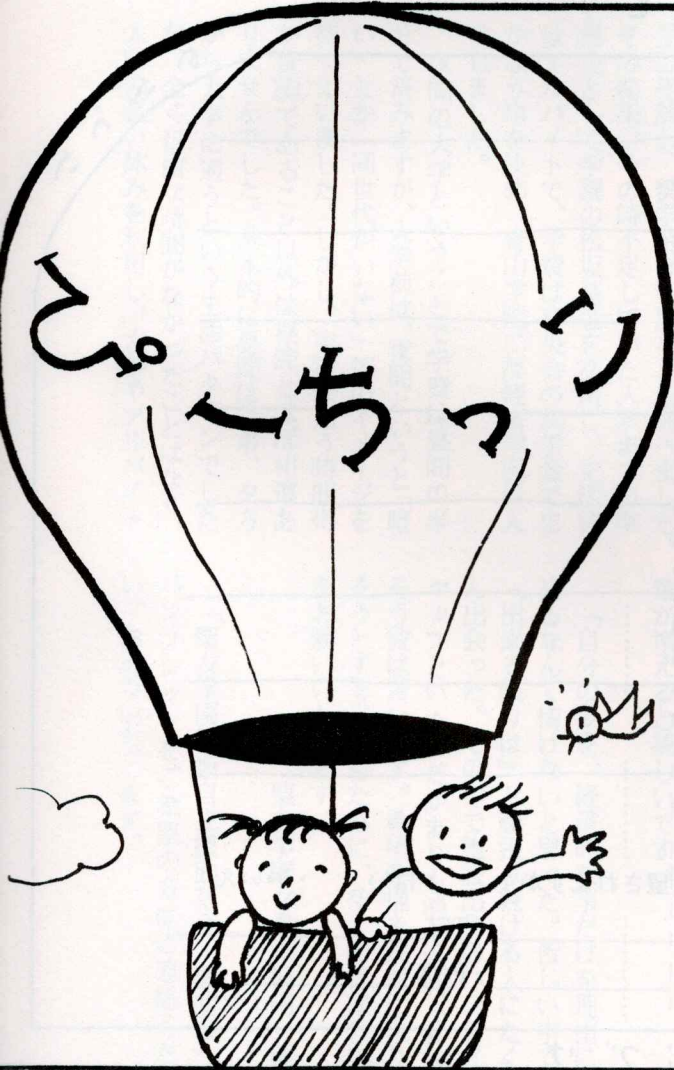
上田和子、佐藤美弥子、杉本洋子、原あや  
子、水野陽子、稲垣宏、三ツ木吉和、高橋祥  
泰、村上千代子

△招待▽

Jリーグ選手協会(サッカースクール)、東  
京三菱銀行社会貢献室(体験教室)、(株)トラッ  
ブドア増島みどり(Jリーグ観戦)、KIDS

オフイス(日韓交流イベント・映画鑑賞)、ト  
ヨタ自動車(株)宣伝部イベントグループ(トヨタ  
タカップ)、大吉阿佐谷店(食事)

タカップ)、大吉阿佐谷店(食事)



19—28—3 北台谷阿区並杉都京東

行 係 「こっちーび」 園友会 聖



(切手不要)  
14日まで  
平成15年3月  
差出有効期間

449  
杉並局承認

料金取人私

1 6 6 8 7 9 0